久保木富房

東京大学名誉教授。
医療法人秀峰会楽山病院名誉院長。
1973年東京大学医学部卒。
1996年東京大学教授（心療内科）。
2005年東京大学名誉教授、早稲田大学客員教授。
医療法人秀峰会楽山病院長。現在に至る。
学会活動等：日本不安障害学会理事長、
日本ストレス学会理事、日本うつ病学会理事など。「心療内科」編集委員長。1990、1993年世界保健機関（WHO）研究委員。
2005年第18回世界心身医学会（WCPM）組織委員長。2006年第47回日本心身医学会会長。2009年第6回うつ病学会会長。
主な著書：「抗不安薬の選び方と使い方」（新興医学出版社1990）、「Bulimiaの臨床」（三輪書店2000）、「心療内科」（星和書店2000）、「リラクゼーション反応」（星和書店2001）、など他多数。

嶋田　洋徳

現在、早稲田大学人間科学学術院教授、臨床心理士
早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了、博士（人間科学）
広島大学総合科学部助手、新潟大学人文学部専任講師、助教授、早稲田大学人間科学部助教授などを経て、2008年より現職
専門分野：行動臨床心理学、認知行動療法
所属学会：日本行動療法学会理事、日本ストレスマネジメント学会理事、日本健康心理学会理事、日本認知療法学会常任編集委員、日本教育心理学会編集委員、日本カウンセリング学会編集委員、ほか
主な著書等：「中学・高校で使える人間関係スキルアップ・ワークシート」（学事出版）、「学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル」（北大路書房）、「60のケースから学ぶ認知行動療法」（北大路書房）、「認知行動療法家のためのＡＣＴガイドブック」（星和書店）、ほか

貝谷　久宣

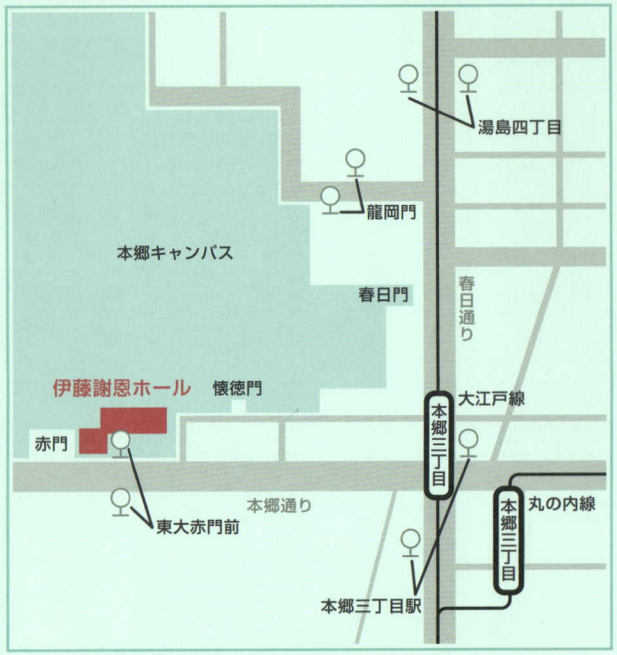
パニック障害研究センター代表・医療法人和楽会 理事長、京都府立医科大学客員教授
1943年名古屋市生まれ。
1962愛知県立明和高校卒業。1968年名古屋市立大学医学部卒業。岐阜大学附属病院にて研修。ミュンヘン・マックスプランク精神医学研究所留学。岐阜大学医学部助教授、自衛隊中央病院神経科部長、岐阜大学客員教授を経て1993年開院、医療法人和楽会理事長。NPO法人不安･抑うつ臨床研究会代表。第1回日本不安障害学会会長（2009年）。
著書:「よくわかる　薬いらずのメンタルケア」主婦の友（2011）、「社交不安障害」振興医学出版社（2010）、「非定型うつ病」日本評論社（2008）、「不安・恐怖症のこころ模様」講談社（2008）、「マインドフルネス･瞑想･坐禅の脳科学と精神療法」振興医学出版社（2007）「気まぐれうつ病―誤解される非定型うつ病」筑摩書房（2007）他

●会場案内●

東京大学 伊藤謝恩ホール

〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
TEL 03-5841-0779　FAX 03-5841-0932

〈アクセス〉
地下鉄丸の内線「本郷三丁目」駅　徒歩 8分
地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅　徒歩 3分
地下鉄千代田線「湯島」「根津」駅　徒歩15分



共　催：NPO法人 不安・抑うつ臨床研究会
持田製薬株式会社

事務局：医療法人和楽会
心療内科・神経科　赤坂クリニック
〒107-0052　東京都港区赤坂3-9-18 BIC赤坂ビル6階
ホームページアドレス：http://www.fuanclinic.com
E-Mail: waraku@fuanclinic.com

不安の医学
第21回都民講演会

テーマ
「子どもの不安・抑うつ」

平成26年2月2日(日)
東京大学　伊藤謝恩ホール

不安の医学
第21回都民講演会

ー テーマ ー

「子どもの不安・抑うつ」

日　時　平成26年2月2日(日)
PM3:30開演(開場 3:10)

場　所　東京大学
伊藤謝恩ホール

入場料　無料

〈はじめに〉

21 世紀は、社会構造や価値観が多様化するとともに多種多様のストレスを経験しながら生活する時代と言えましょう。その中で、健康で人間らしく生きるためには様々な工夫やスキルの獲得が必要です。特に、発達途上の子どもにおいては、そうしたストレスの影響を強く受け、多くの心理的身体的あるいは社会的な障害を抱えることも少なくありません。子どもの不登校、ひきこもり、非行などの問題行動や心身の障害は、昨今の大きな社会問題となっています。

そこで今回は、「子どもの不安・抑うつ」というテーマで開催することになりました。

境泉洋先生 (徳島大学) には、「ひきこもりの子どもと家族を支える認知行動療法」というタイトルで、ひきこもり家族会の活動を中心に認知行動療法の適応事例を交えながら講演をしていただきます。嶋田洋徳先生 (早稲田大学) には、「子どもの不安・うつとストレスマネジメント」というタイトルで、教育現場でのストレスマネジメントの実際を紹介していただきます。

子どもの抱える問題を下支えするためには、家族、学校、地域、福祉・医療施設など様々なレベルでの社会的サポートが必要不可欠です。本講演会では、将来の社会をになう子どもが健全な発育を遂げるためには、どのような支援が必要かを考える良い機会となることを期待しております。どうぞ、皆様ふるってご参加ください。

平成26年　如月　吉日

● プログラム ●

オルガナイザー：**野村　忍**
早稲田大学人間科学学術院 教授

●PM 3:30～　開会の辞
佐々木　司
東京大学大学院教育学研究科教授 / 第６回日本不安障害学会大会長

●PM 3:35～
「ひきこもりの子どもと家族を支える認知行動療法」
講師／**境　泉洋**
徳島大学大学院 准教授
司会／**久保木富房**
東京大学名誉 教授 / 日本不安障害学会 理事長

●PM 4:30～
「子どもの不安・うつとストレスマネジメント」
講師／**嶋田　洋徳**
早稲田大学人間科学学術院 教授
司会／**野村　忍**
早稲田大学人間科学学術院 教授

●PM 5:25～　閉会の辞
貝谷　久宣
医療法人和楽会 理事長 /ＮＰＯ不安・抑うつ臨床研究会 代表

● 推 薦 図 書 ●

- ●中学・高校で使える人間関係スキルアップ・ワークシート（学事出版）
- ●学校職場，地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル（北大路書房）
- ●60 のケースから学ぶ認知行動療法（北大路書房）
- ●認知行動療法家のためのＡＣＴガイドブック（星和書店）
- ●CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブック（金剛出版）
- ●CRAFT 依存症患者への治療動機づけ（金剛出版）
- ●メタ認知療法（日本評論社）

● 演者の紹介 ●

野村　忍

専門分野：心身医学、行動医学、臨床心理学
学歴：1977 年神戸大学医学部卒業
職歴：1996 年東京大学医学部心療内科助教授。2000 年早稲田大学人間科学部教授（現職）（2008 年 9 月 12 月ロンドン大学客員教授）。
学会活動：日本行動医学会理事長、日本心身医学会理事、日本心理医療諸学会連合理事、日本ストレス学会理事、日本産業ストレス学会理事など他多数。
主な著書：「ストレスと心臓病」(弘文堂 1995)、「心療内科入門（編著)」(金子書房 1993)、「不安とストレス（編著)」(日本評論社 1998)、「情報化時代のストレスマネジメント」(日本評論社 2006)、など他多数。

佐々木　司

東京大学医学部医学科卒業後、同付属病院精神科にて研修。93 年よりトロント大学クラーク精神医学研究所に留学。
99 年より帝京大学溝口病院精神科講師、東京大学講師（保健センター精神科）、同助教授（准教授）を経て、2008 年に東京大学精神保健支援室長（教授）。2010 年より同大学院教育学研究科健康教育学分野教授に異動。学校精神保健の教育・研究に従事するとともに、発達障害等の支援を担当する同大学コミュニケーションサポートルームを兼務。日本不安障害学会理事、日本精神行動遺伝医学会理事、日本生物学的精神医学会評議員、日本統合失調症学会評議員。研究分野は不安障害を含む精神障害全般の臨床・疫学研究。英文専門誌への投稿論文 150 編などを中心に成果を発表している。

境　泉洋

現在、徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授（博士（人間科学）臨床心理士、認定行動療法士)
2004 年志學館大学大学院心理臨床学研究科講師。2007 年徳島大学総合科学部准教授。
組織改編により 2009 年 4 月から現職。
日本行動療法学会理事、行動療法研究常任編集委員、認知療法研究常任編集委員、NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会理事、徳島県青少年健全育成審議会委員。
主な研究テーマは、ひきこもり状態にある人やその家族への認知行動療法による支援。
筆頭著書に「CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブック」（金剛出版）、分担執筆に「認知行動療法の技法と臨床」（日本評論社）、「ひきこもりに出会ったら」（中外医学社）、「『ひきこもり』考」（創元社）などがある。監訳に「CRAFT 依存症患者への治療動機づけ」（金剛出版）、「メタ認知療法」（日本評論社）がある。